平成２８年度米子市美術館協議会議事録概要

開　会　（１５：３０）
岡文化課長挨拶

議題１　平成２８年度米子市美術館事業報告について
（青戸統括学芸員が資料に沿って事業報告を行う。以下、補足）
・平成２８年度の総入館者数は１月末時点で 56,289 人で、平成２７年度１月末時点の 64,344 人に比べ約 8,000 人減少しています。２７年度は 15,157 人の入館者があった安野光雅展、15,414 人の入館者があった篠山紀信展と大きな展覧会を開催したためです。なお、昨年度の総入館者数は 77,373 人です。
・主催事業として開催いたしました特別共催展「ターシャ・テューダー展」は、初めて山陰中央テレビとの共催で行い、鳥取県造園建設業協会、とっとり花回廊のご協力によって、美術館前に「ターシャの庭」を設置し大変好評いただきました。また、図書館、児童文化センターの司書によるおはなし会を４回開催しております。昨年度の特別共催展と比べ、日数が少ないにも拘らず、安野展や篠山展より入場者が多かったという結果が出ております。
・「國頭繁次郎と宮崎進展」は地元淀江町出身の國頭の生誕 100 年を記念して開催いたしました、またシベリア抑留を経験した作家でもあるため、戦後 70 年を過ぎた今、郷土の作家を知ってもらう機会にもなりました。同じくシベリア抑留経験者である、山口県周南市出身の宮崎進の作品を周南市美術博物館のご協力により展示することにより、これまで知られていなかった國頭のシベリア抑留時代を垣間見る機会となりました。
・常設展はⅠ・Ⅱ・Ⅲと三部開催し、併せて 2,857 人の入館者数となりました。
・２月２６日からは若手作家支援展として、米子市出身の坂本和也さん「Landscape　gardening」を開催します。
・市展について、今年度から出品１点につき 1,000 円の出品料を徴収し、市展賞・奨励賞に賞金をつけるということをいたしました。また、６部門のうち４部門は一人２点出品が可能といたしました。そして、文化ホール主催の市音と連携し、市展初日の開館記念日に米子市の歌を合唱してもらいました。市音プログラムの裏表紙に市展の広告を、市展の出品目録に市音の広告を掲載いたしました。その結果、出品点数、入場者数ともに増加する結果となりました。
・米子市文化財団フェスティバルは創作交流広場で美術館・児童文化センター・山陰歴史館・埋蔵文化財センターが連携し初めて行いました。
・貸会場事業について、昨年度ご要望のあった利用料収入について記載してお

ります。

（長田会長）２８年度事業報告について何か質問がございますか。

（高増委員）貸館利用料収入について、事業報告へ掲載していただきありがとうございます。利用が増えたというのは日数が増えたのでしょうか。件数が増えたのでしょうか。

（青戸統括学芸員）資料のとおり平成２７年度４７件だったものが、平成２８年度は５６件に増えております。

（大谷委員）④資料収集について、郷土関係作家の作品の調査は美術館の職員さんがしておられるのでしょうか。いつも忙しそうにしておられますが、こういったことは進んでいるのでしょうか。

（今副館長）来年度の事業計画でもご説明いたしますが、米子美協さんの展示を計画しております。そちらの調査と併せて郷土作家の調査も引き続き進めていきます。

（長田会長）今年度の報告を受けて、それぞれの分野でよかった点、あるいは改善点、委員としてこうしたいなどの意見はございますか。

（湯原委員）私は今、公民館での活動もしています。その中で趣味を持ちながら活動しておられる方がたくさんおられますが、一番の悩みは高齢化です。美術館利用者の変化などで気づかれたことはないでしょうか。どの分野でもあることだと思いますが、新しい人が入らず高齢化し衰退してしまうことが起こっていると思います。若い人が利用できるような方法で次へ繋いでいかなければ、せっかくいいものができても、心の潤いになるような芸術を鑑賞する機会が失われてしまうことにもなるので、昔と比べてどうでしょうか。

（中村館長）おっしゃるとおりです。特に貸会場で美術館を使っていただく団体の方の高齢化が顕著に表れていると思います。そのため団体が消滅して、これまで使っておられた団体が使われなくなる状況は、年々増えているように感じております。それぞれの団体が若手をうまく引き入れていかれると上手くいくのでしょうが、なかなかできない現状を感じています。

（長田会長）美術館へ行きたくても高齢者は交通手段がないため、市の循環バス等の交通が整備されればよいと思います。

（湯原委員）なにかやらなければ地域が維持できないという危機感があります。美術や文化についても、なにかやらなければ衰退してしまいますので、小学生・中学生・高校生が美術館を利用してよかったという体験を積むような仕組みを作っていかなければ、活発な文化活動は期待できないと思います。地域で行った取り組みですが、小中高校生が地域のことを考える機会を作りました。ペタンク大会で学年を超えたチーム編成で自治会の代表として出場し、保護者も見に来るなどの盛り上がりで、地域の活性化につながりました。今までとは変わった趣向で、若い世代に美術館に興味を持ってもらうことが活性化につながるのではないでしょうか。どこの美術館でもやっていることではなく、思い切ったことが必要で、例えば一番優秀な作品には大きな賞金があるとか、小中高で最優秀賞をだし５万円相当の賞品があるとか、自分がやったことに対して大きな評価をしてもらえることは、興味を持つことにつながりおもしろいと思います。

（高増委員）沢山の事業に取り組んでいただいておりますが、教育普及事業や展覧会の開会式に合唱を組み合わせるなど、いろいろな工夫をしておられると思います。利用者の高齢化はみなさんが思っておられますし、若い世代を取り込めないものかといろいろな企画を考えておられるとは思いますが、なにか新しいことにチャレンジしてもらえたらと思います。

（小林委員）いろいろなことを企画しておられて、参加させてもらうとすごいなと感じます。ターシャ・テューダー展も来場者が多く、いろいろな所で楽しめたという印象です。例えば子供たちが学校でないところで創作活動をするということで、９月に行われたワークショップなどはとてもいいと思いますが、参加人数が１１人というのはアナウンスの問題ではないか思います。どういうふうにアナウンスしていくかが課題だと思います。私も今日の事業報告を聞いて、知らないことがたくさんありました。せっかく有意義なものを開催しても参加者が少ないと美術館のモチベーション低下にも繋がることですし、よい方法がないものかと思います。

（今副館長）ワークショップの参加人数が少ないということですが、９月のシルバーウィークの期間で、イベントが多数重なったことが一つの要因であると思います。このイベントは保護者の方も同数参加していただきましたので、２

０人程度の参加で賑やかに開催はしましたが、実績としては子どもさんの数で１１人となりました。活動としては、かなり大がかりで難易度の高いものを親子で協力し達成していくというもので、参加者の方には好評いただきましたが、日程については今後の検討課題にしたいと思います。ターシャ・テューダー展に関しては、アンケートの回答率が１７．２％（2735 名）で、来場者の満足度が非常に高いという一つの評価の指標になるものだと思います。いままで連携できていなかったところと新機軸を打ち出せたこと、造園建設業協会さんやとっとり花回廊さんとの新たな連携は、美術館として経験のないことで調整など大変ではありましたが、SNS にターシャの庭をアップしてそれで拡散していくなど成果は上がったと思います。

（長田会長）いかがでしょうか。２８年度事業で困られた点、よかった点、などもう少し出てくるとよいのですが。いろいろな事業をしておられますが宣伝方法をもう少し考える必要があると思います。子供たちを美術館に集めようというのがここ数年の美術館活動の一つのテーマであり、地元作家をどうやってピーアールするかという点においても地域創生のための美術館活動、地域に住む人のための美術館活動という点で、更に工夫を考えられたらよいというのがみなさんから出た意見のまとめではないかと思います。

（湯原委員）先ほど思い切ったことをする必要があると言いましたが、例えば公民館でなにかやるにもお金がなく、それを工面する方法として募金をします。趣旨を説明した上で、それに賛同する人から募金を集めるコーナーを設けて、集めたお金でこの度もペタンク大会をやりました。美術館でも来館者から募金を集めて、子どもを対象とした事業に使うとか、大人を対象としたワークショップ等に使うということをすれば、予算の関係でできないことも可能になると思います。お金がなければ集めて作るということを考えてもよいと思います。

（吉野委員）小学校です。２月初めにジュニア県展でお世話になりました。子供たちの作品が美術館に飾られるということは、子供たちにとってとても励みになることで、素敵な展示会にしていただいていると思います。米子市では他に二回作品展をしています。夏に造形展と２月に米子市の美術作品展をしていますが、児童文化センターで展示しています。本当は美術館を使わせていただきたい思いがありますが、美術館で作品展をする場合、だれか展示室についていなければならないということで、学校では人をつけることができず児童文化センターで行うことになりました。でも子供にとっては美術館に自分の作品が展示してあるというのはすごいことで、そうすることで美術館が身近なものに

なるのではないかと思います。米子市の美術作品展では各クラス２名の作品を展示しますので、たくさんの子供と保護者が美術館に来ます。まず美術館に行ってみようと思わせることが大事ではないかと思います。

（湯原委員）そういうことは、すぐにできると思います。例えば、PTA の方にお願いして、その学校から１名出してついてもらえれば実現可能です。美術館の方が付くことは出来ないけれど、団体さんから付かれればいいわけです。先生が付く必要もないです。

（吉野委員）実はアンケートを取ったことがあり、都合がつけばしてもよいという方もいらっしゃったので、保護者の方や地域の方のボランティアを募り、なんとか実現できるようにしたいと思います。児童文化センターは駐車場が狭いので、美術館であれば駐車場も広く、図書館も近い。非常に魅力的だと思っています。

（中村館長）先ほどの小学校の展覧会のお話しがありましたが、子供さんの作品が美術館に展示されるというのはすばらしいことで、親御さんやおじいさんおばあさんが観に来られれば来館者が増えるということは美術館としても望ましいことだと思います。ぜひよろしくお願いします。

（岡課長）何点かご意見、ご質問をいただきました。その中で、交通手段の確保というご意見が出ましたが、米子市内でバスや公共交通を確保していくことは難しい状況になってきております。だんだんバスやどんぐりコロコロを使って路線バスに繋げていけるようにはなっていますが、それが十分と言えるかは難しい面があると思います。現状では今以上の公共交通機関で美術館への来場を支援することは難しいと思いますが、できるかぎり公共のバス等を利用していただきご来場いただけたらと思います。

広報につきまして、例えば共催展で新聞やテレビ等を使いＰＲをどんどんやっていきますと周知も図れお客さんにも来ていただけますが、それでもなかなか数が伸びないこともあります。マスコミ媒体を使いますと非常に費用がかかりますので、それをいつも使うことはできずなんとか工夫をしながらやってきているところです。ですがこのＰＲについてはもう少しなにかできることがないか検討していきたいと思います。例えばＳＮＳを多用したり、学校に積極的に働きかけてみたり、なんらかの方法を探ってみたいと思います。

募金の話が出ましたが、募金はある目的のためにお金を集めていくことになります。そうすると目標金額が貯まったときになんらかの事業ができるという

ことになりますが、目標に達しなかった時にどうするかとか、使おうと思っていた目的の事業ができなくなり別のことに使う時に募金の趣旨と変わってしまうことはどうなのかといった問題がでてくることになります。公金をあつかうことになりますので、難しい面があるかもしれません。米子市で募金と言いますと、「ふるさと納税」という制度がございます。その中で次世代のための支援という意味合いで納税していただく方もあると思いますので、そういう公的な支援金を活用しての事業ができないものか、内容によっては検討してみる余地はあると思います。

議題２　平成２９年度米子市美術館事業計画について
（今副館長が資料に沿って事業計画を説明する。以下、補足）
・重点施策（３）収蔵作品・資料データベース化について、平成２９年度は更新年にあたるため、公開端末２台を１台にし、デジタルサイネージを用いた広報の強化を図ります。
・特別企画展「米子美術家協会-70 年のあゆみ」は当初、山陰歴史館との相互割引を計画しておりましたが、山陰歴史館の展覧会の日程が変更になったため相互割引という形での連携はなくなりました。
・常設展につきましては、２９年度は展覧会事業が多くなった関係で２本の予定です。
・教育普及事業の美術講演会は、山下清さんの甥にあたる方の講演会を図書館で計画しております。
・モニター制度は２９年度から第６期になりますので、現在募集しているところです。
・資料収集については、２９年度に郷土作家の展示もいたしますので、引き続き収集に努めたいと思います。今年度は濵田台兒さんの作品展が県立博物館であり、米子市美術館収蔵の作品が展示されますので、県内の美術館・博物館との連携も資料収集とあわせて展開していきたいと考えています。
・事業計画には載っておりませんが、平成３０年度に行われる大山開山１３００年祭の事業にあわせた計画にも参加し進めております。

（長田会長）ただいま説明のあった平成２９年度事業に関して、何か質問がございましたらお願いします。

（生田委員）今年も市展は出展料を徴収されるのでしょうか。去年の出展料は賞金に回したとのことですが、その収支がどのようになっていて、それが効果的であったかどうか、どのように把握されているでしょうか。

（中村館長）収支の状況につきましては、出品料に対して市展賞と奨励賞を現金化してお渡ししたというところで、第１回であったということもあり実際にどれくらい出品していただけるか分からなかったのですが、収支差額は５６，０００円で昨年は残りました。これについては今後出品数が減ることも考えられますので、貯めておいて財団から出させていただくということと、今年度市展の受賞数を増やしていこうということを市展運営委員会で確認いたしました。

（生田委員）それで出品数が増えたという効果はありましたか。

（中村館長）出品数も入場者数も増えました。

（青戸統括学芸員）昨年度は２８６点だった出品数が今年度は３００点になりました。

（長田会長）出品なさるそれぞれの分野の方々のご意見をいただきたいのですが。何か特色をもってやることを考えてもよいかと思います。創作交流広場も十分使われているのかとか、来年度の計画でこの辺りに力を入れてほしかったなどご意見はございませんでしょうか。

（小林委員）美術館の喫茶室はとても評判がよく、美術館にいくなら必ず寄りなさいと市民の方から言われるくらいです。常設展などと連携して入場者を増やすという戦略はどうでしょうか。

（湯原委員）一生懸命がんばっていただいていることは感じています。昨年度も彫刻に関するすごくいい展覧会があったと思います。この勢いで今年もがんばっていただきたいと思います。できることなら出雲地域と伯耆の加納美術館、島根県立美術館、米子市美術館など他館と連携して、すごく大きな催し物をして一斉にして同じポスターでアピールするとか、山陰放送、ＮＨＫ放送を使ってやってみるとか、連携すると大きくインパクトのあることができるのではないかと思います。

（今副館長）連携事業ということですが、大山の開山１３００年祭を鳥取県が実行委員会となって実施しているところです。美術館でも３０年度に鳥取県立博物館をはじめ、東京の大きな美術館や博物館から作品をお借りして、また県内や島根県からも作品をお借りして大きな事業をするため、今年度から準備し

ています。ご報告できることがありましたら、追ってさせていただきます。

（高増委員）今ちょうどカナダの日系ナショナル博物館で展示中の作品を巡回展として、来年の今頃米子市美術館で展示されます。これはマルチメディアインスタレーションといって、映像とか音響を使った立体的な舞台セットのようなものが美術館の中にできます。ぜひお越しください。それと入場者数を増やすということで、私は設計製図の授業で美術館を題材とした課題をだし、敷地見学と称して学生を連れてきてみたりしています。小学校や中学校の授業のなかである時間を使って見にくることができれば相当な数の小中学生が美術館に足を運ぶことができると思います。以前特別展で小学生無料のチケットを配られたことがあったと思いますが、チケット型にして配ると行ってみようかなという気持ちになるのではないかと思います。

（吉野委員）来年もすごく楽しみな事業がたくさんありますので、子供たちにも美術館にきてほしいと思います。子供には目だけではなく、手、匂い、空間とかそういうことも感じさせてあげたいと思います。例えばこの会場のような白い部屋に、子供が入ったら何をするだろうなど思います。ドキドキ、ワクワクする美術館にたくさん来させてあげたいと思います。学校単位でバスに乗ってくることができるといいと思います。

（入江委員）大人も子供も美術館に行こう運動のようなものを考えてみてはどうかと思います。　美術館、博物館、歴史館等は堅苦しいイメージがあるので、もう少し単純で分かりやすく、面白そうだと思うようなことを考えられるといいのですが。具体的でなく申し訳ありません。

（藤山委員）先ほどから子供たちを美術館にこさせようという意見が多いですが、私も子供たちに書道を教えていますが、どこに美術館があるのか知らない子が多いです。もう少し学校にも働きかけていくといいと思います。

議題３　（岡課長が資料に沿って寄贈に係る経緯を報告する）

　戸田海笛の「喜怒哀楽の図」レリーフの設置につきまして、今までの美術館協議会でも協議してきた経過がありながら、リアルタイムで経過をお伝えできなかったことを申し訳なく思っています。

資料は概要ということでまとめております。結城市にあったレリーフが米子に戻ってくることになる、動き出したころからの経過になっております。初めが平成２４年頃で、市民有志による会が発足しまして平成２５年に正式に会が成

立しました。以降、結城市に行かれたり交渉したりしながら進んでいき、平成２７年１月に１００人委員会から事業計画書の提出を受け、美術館協議会でご検討いただいたというところでございます。この時は米子市が受贈し、美術館屋外のどこかに設置するお話しをさせていただきました。そして、レリーフの設置位置や取り付け方法、安全面に配慮し検討するということを協議いたしました。その後話を詰めていき、最終的には平成２８年２月の美術館協議会のなかで設置場所や方法について最終案をご承認いただきました。その２月から３月にかけて石膏レリーフの帰郷記念戸田海笛展を開催してお披露目をいたしました。石膏レリーフは展示が終わってから、皆生のおーゆーランドに展示してございます。ブロンズレリーフの設置工事は、去年の６月から８月まで３ヵ月ほどかかりました。大きいものですので、地盤の弱い部分に杭を打ったりして土台を作るのが大変だったためです。８メートルを超える土台の中に７メートルのブロンズレリーフがはめ込まれているということです。８月３１日に１００人委員会の代表の方々と市長以下関係職員が出席し、贈呈式と除幕式を行いました。除幕式が終わってみなさんがレリーフを見ておられる写真が、市報１０月号に掲載されました。以上が経過報告です。

（長田会長）１００人委員会が発足したのはここに書いてあるとおりです。会長は歯科医の岡本先生にお願いし、５人から始めたわけですが、１００人はすぐ集まりました。そこから募金活動を始めたわけですが、募金は１０００円からで、１０００円募金してくださる方は沢山ありますが、材料費などで多額の費用がかかるためなかなか目標額にはなりませんでした。結城市から運ぶ方法や石膏レリーフを修復する必要があるなど苦難の道のりでした。昨年２月に石膏レリーフを持ち帰り展示会を開いていただいたところ、本当にたくさんの方に見にきていただきました。その後の保管場所については、広い場所で米子市内ということで立候補を募り展示していただいております。ブロンズの作成と展示について進める中で、さらに資金が不足し募金もこれ以上はなかなか集まらないため、展示の台座については市の方で対応してもらうことになりました。紆余曲折を経てやっと完成しましたが、完成したレリーフに雨漏りのような汚れがつきまして、それについては市で対応してもらうことになっております。

寄附をしてくださった方全員の名前を彫ることはできませんでしたので、寄附帳のようなものを作成し、美術館に置かせてもらいたいと思います。これについてはまた調整します。会長からもみなさんにお礼を言ってくれとのことでしたので、この場を借りましてお礼申し上げます。ありがとうございました。

この件に関しまして何かご質問等ございますか。

（長田会長）ないようですので、美術館協議会を閉会いたします。ありがとうございました。

閉　会　（１７：１０）